

令和元年度

関わり続ける定住のカタチの実践による  
「結の故郷」づくりに向けた基礎的研究

雰囲気づくりを軸とした  
多世代の協働による横町スタジオの活用と運営の検討  
-住みながらリノベーションを通じて-

令和2年3月

関西大学

建築環境デザイン研究室

## 1 プロジェクトの目的

本研究は、関西大学の学生が大野市に定期的に関わり続ける中で、地下水といった地域資源に関する調査・分析の実施と大学生と住民との交流の積み重ねを通じた住民主体の活動の促進とまちづくり機運の醸成を目指すものである。

上記の目的の実現に向けて、建築環境デザイン研究室では下記の実施した。

- ・空き家を活用した関わり続けるための滞在活動拠点「横町スタジオ」の開設
- ・「横町スタジオ」の空き家リノベーション活動
- ・横町スタジオを拠点に、関わり続ける定住のカタチの実践と地域交流の実践 など

## 2 プロジェクトの内容

※別紙 「2019年度 関西大学横町スタジオ活動記録」を参照

## 3 令和2年度の展開に向けて

別紙：福井県大野市横町スタジオにおける“雰囲気から考える建築”を軸とした設計プロセスの研究と展望-住みながらリノベーションすることを通じて-“関西大学大学院令和元年度修士論文、三浦紋人”を活動の原点として、令和2年度は、改めて横町スタジオの活動の意義を問い直し、確信的なものとするべく事業を展開する。

具体的には、「関西大学横町スタジオ」を拠点とした下記の四つの事業を実施する。いずれの事業も大野に住むことの再考を目的とする。

### a. 横町スタジオリノベーションプロジェクトの実施

地域の交流拠点である横町スタジオの運営・活用を地域の人々と協働で行う。ここでのリノベーションとは、ソフト（ラジオ体操、おちゃ会）/ハード（改修工事）の両面である。

### b. 空き家掃除バイトの実施

研究室で取り組んできたリノベーションは、初期に行う掃除が原点となっている。空き家掃除は景観に変化を与えるだけでなく、人の交流も生まれるという観点から、大野市での空き家利用の促進に繋がると考える。

### c. 「私が未来の市長プロジェクト」における高校生のまちづくり提案の実現

今年度提案された、街中に高校生の自習スペースを作りたい等は、地元の交流を促すと考える。

### d. 空き家活用団体の立ち上げ

上記のような事業を支援する仕組みづくりを目的とする。

#### 4 資料集

- ・大野市での活動概要紹介リーフレット
- ・横町スタジオリノベーション制作物集
- ・福井県大野市横町スタジオにおける“雰囲気から考える建築”を軸とした設計プロセスの研究と展望-住みながらリノベーションすることを通じて-“関西大学大学院令和元年度修士論文,三浦紋人”

2019年度 関西大学横町スタジオ活動記録

2019年度 横町スタジオ活動記録

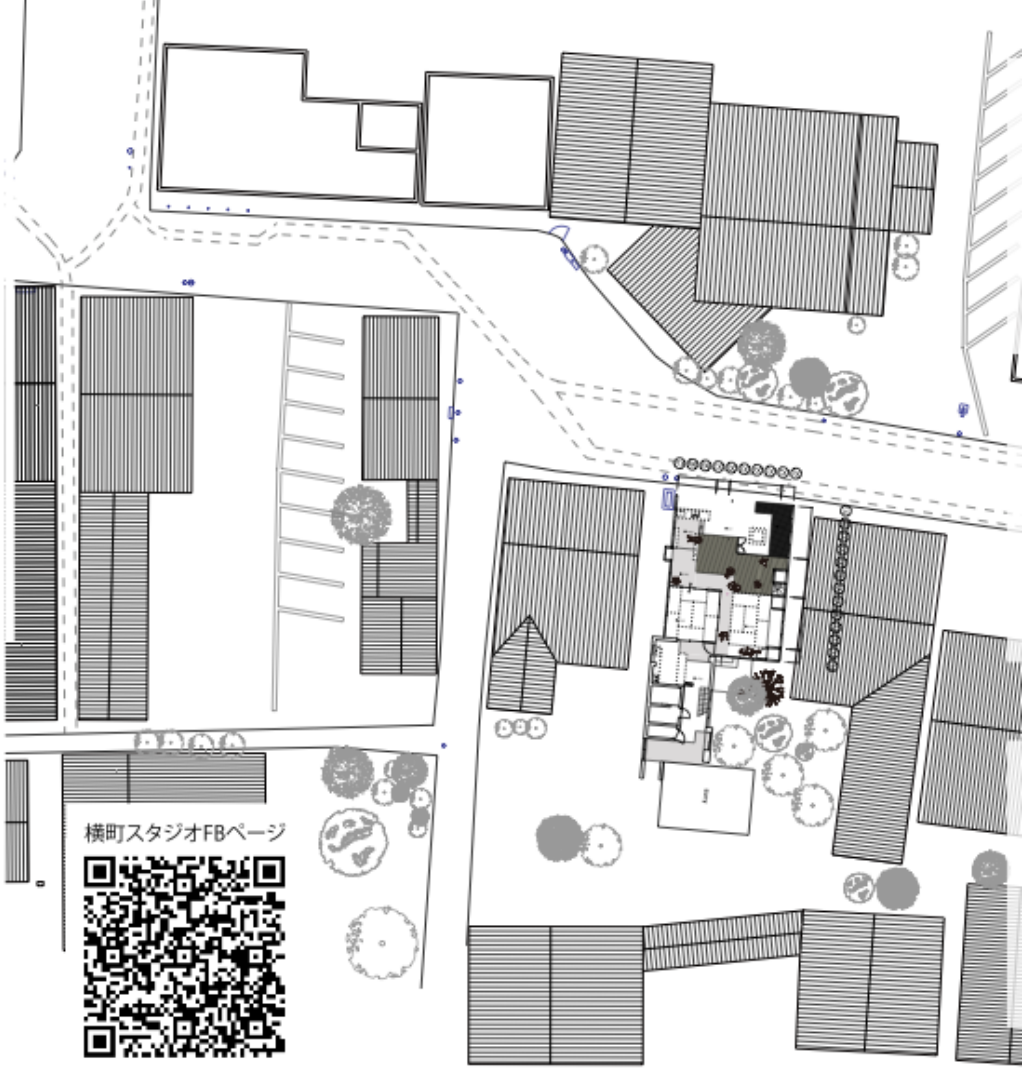
活動名	分類	年	月日	内容	場所	担当	協働者				
おちゃ会	コミュニティ作り	2019	4/13	ほうじ茶	横町スタジオ	三浦、浜田、好田	大野市の住民				
			5/12	菊野街道							
			6/8	コーヒー							
			7/14	レモネード							
			8/10	レモネード							
			9/14	レモネード							
			10/13	豚汁会							
			11/2	学業会							
			12/14	抹茶会							
			12/29	忘年会							
			1/11	抹茶会							
			2020	2/8 (予定)							
		3/14 (予定)									
		定例会	地域連携協定議	2019				4/17	今年度活動の共有	大野市役所	三浦
5/17	ラジオ体操等、住民主体の活動について共有					三浦	大野市				
6/27	横町歩行者天国プロジェクトの共有				横町スタジオ	江川、出町、三浦	大野市				
7/14	お茶会の活動報告 モモンガコーヒー2階リノベーション事業の共有						大野市				
横町スタジオ リノベーション	修繕工事	2019	5/20	電気温水器漏水	横町スタジオ	三浦	九頭龍設備				
			打ち合わせ	5/29	第3次横町スタジオリノベの方向性の議論	佐治スタジオ	出町、三浦				
			勉強会	5/30	横町スタジオリノベに向けて、住宅特集を用いて事例調査	関西大学	三浦、学生6名				
			実測調査	6/23	横町周辺の実測調査		三浦、好田				
			勉強会	6/30	横町スタジオリノベに向けて、住宅特集を用いて事例調査	関西大学	三浦、学生6名				
			実測調査	7/13	スタジオ天井と床の構造確認	横町スタジオ	三浦	OB2名			
			勉強会	7/23	横町スタジオリノベに向けて、住宅特集を用いて事例調査	関西大学	三浦、学生6名				
			提案部会	10/2	現場写真を見ながら、コンセプトの議論	関西大学	江川、出町 三浦、好田	提案部会2名			
				10/9	平面図、断面図を用いて議論	関西大学梅田キャンパス	江川、出町 三浦、好田	提案部会3名 OB2名			
				10/24	都市的にみた横町スタジオの議論、素材・色の選定	関西大学梅田キャンパス	江川、出町 三浦、好田	提案部会5名 Ob2名			
				現場スタディ	10/5,6	レイアウト	横町スタジオ	三浦、江馬	堀、富江		
				大掃除	11/1	車庫の整理、材料の確認	横町スタジオ	三浦、好田、芦原			
				解体工事	11/2	鴨居撤去	横町スタジオ	三浦、好田			
				塗装工事	11/24	畳塗装	横町スタジオ	三浦、好田	住民3名		
				解体工事	12/2	照明撤去	横町スタジオ	三浦、好田			
				木材の発注	12/2	デッキステージ、上り土間も使うフロア材の購入	浦山工業	出町、三浦、好田	浦山工業		
				キッチン施工	12/3,4,5	土間部分キッチン施工 水道設備工事	横町スタジオ	三浦、好田、藤居 藤本	九頭龍設備		
			ステージ施工	12/13-22	土間部分のステージ床貼り	横町スタジオ	三浦、好田	横町住民2名			
			ステージ施工	2020	1/2,3,4,5	土間部分のステージ床貼り	横町スタジオ	三浦、好田	横町住民2名		
			モモンガコーヒー 2Fリノベーション	実測調査	2019	6/26	実測図面の作成と現場写真撮影	モモンガコーヒー2階	三浦、好田	モモンガコーヒー、 大野高校、 荒島社、 CROP、 大野市、 私が未来市長 プロジェクト、 本の交換会、 ゆるふる本市、 横町住民、 OB学生2名、	
						打ち合わせ	7/4	工事プログラムの共有	モモンガコーヒー	芦原、藤本	
						打ち合わせ	7/12	大野高校のスケジュール確認。 大野へ帰ろうプロジェクトを元に 作業プログラムの調整	大野高校	三浦	
						打ち合わせ	7/16	募集に関する調整	大野市役所	三浦	
打ち合わせ	7/29	当日スケジュールの打ち合わせ				モモンガコーヒー	三浦				
工事	7/31	オリエンテーション					三浦浜田				
	8/1	工事				モモンガコーヒー2階					
	8/2	工事									
	8/3	工事、しゅんコン記念イベント									
	8/9	プレオープンに向けたスケジュール調整					三浦				
8/26	当日写真の共有と成果報告	大野高校					三浦				
活動報告	8/27	横町スタジオにて、BBQ				横町スタジオ	三浦				
おつかれさん会	9/14	成果報告と考察の共有				横町スタジオ	三浦、浜田				
工事	10/5-10/7	プレオープンに向けた木工工事				モモンガコーヒー2階	三浦、好田				
プレオープン	10/12,13	図書室プレオープン				モモンガコーヒー2階	三浦				
竣工写真撮影	2020	1/12				外観、内蔵利用の写真撮影	モモンガコーヒー2階	三浦			
コンクール提出	2/1	第11回建築コンクールへ応募				モモンガコーヒー2階	三浦				

横町スタジオでの活動

ラジオ体操	コミュニティ作り	2020	7/10~(毎朝)		横町スタジオ前道路	三浦	横町地区の皆さん		
	講習会		7/6	大野市ラジオ体操講習会					
	テレビ出演		7/26						
	コミュニティ作り		8/21	朝ごはん会					
YOKOMACHI ARCHITECTUAL LAB 2020	まちづくりゼミ	2020	1/25	「気軽に集まれる場所」から見る風景と題して、男山地域における地域拠点活動に関するゼミ	横町スタジオ	三浦	一般社団法人カンデ 辻村修太郎 関谷大志朗		
			2/9	「ニュータウンにおける大学連携型地域再編活動について」と題して、南花台地域における多世代交流コミュニティに関するゼミ		三浦、好田	荒島社 大野高校 大野市		
			2020/3/15 予定	横町スタジオ内覧会とく横町通りを知る「けんちくワークショップ」と題して、私が未来の市長プロジェクトと協働して、高校生のみちづくり提案を実現するためのワークショップとゼミの開催		三浦	私が未来の市長プロジェクト 累計参加人数23人		
丹波大野ゼミ合宿	横町スタジオまちづくり活動	2019	4/18-20	建築環境デザイン研究室のゼミ合宿と地域の交流会	横町スタジオ	三浦	nisyoku 参加40人		
FBCラジオ出演			4/21	ラジオ体操の報道	福井市	三浦	大野市松山さん		
横町農園			4/21	街中にコミュニティづくりとしての農園づくりプロジェクトのキックオフ	横町スタジオ	三浦	良縁農園 16人参加		
横町地区BBQ大会			5/23	地域調査	瑞祥寺	三浦、芦原、藤本	横町地区の皆さん		
歩行者天国について			5/24	横町通りの歩行者天国化の検討に向けた打ち合わせ	大野警察署	三浦	大野市		
大野市インターンシップ学生受け入れ 越前信用金庫とまちづくり意見交換会			8/10	横町通りの住民と交流するプログラム	横町スタジオ	三浦	大野市 学生1名		
空家ツアー			8/27	地元民間企業と大学連携の可能性を意見交換	横町スタジオ	三浦	越前信用金庫 6名		
カレー曜日			9/1	育てた野菜の収穫と、調理。	横町スタジオ	三浦	良縁農園 参加者25名		
空家ツアー			10/13	横町スタジオの空家活用例の紹介	横町スタジオ	三浦	荒島社 参加者13名		
JAテラル越前とまちづくり意見交換会			11/1	地元民間企業と大学連携の可能性を意見交換	横町スタジオ	三浦	JAテラル越前 6名		
横町スタジオの活動報告			12/8	横町スタジオの空家活用例の紹介	横町スタジオ	三浦	JUDI北陸 20名		
その他の活動			まちづくり活動、地域調査	2019	4/28	賑やかし	七間通り	三浦	crop
					5/18	会場レイアウト	Popolo.5	三浦、丹羽	五番商店街組合
	5/25	地域調査			荒島岳	三浦			
	5/26	地域調査			大野市	三浦、藤居	荒島社		
	8/12	地域交流会			ツイタチビル	三浦、浜田、井戸澤、藤本	荒島社		
	8/15	盆踊りの交流ブースの運営			六間通り	三浦、浜田、井戸澤、藤本	大野市有志団体		
	9/8	多世代交流に関する調査に関する、劇団加入と実践			大野市文化会館	三浦	劇団チャップス		
	10/12.13	空家ツアーにて、横町スタジオの紹介			大野市街	三浦、浜田、井戸澤、藤本	荒島社		
	10/19.20	里芋ブースの会場提案と設営			城下町南広場駐車場	三浦、好田	株式会社ライトスタッフ		
	11/10	木工ワークショップの企画			六呂師円山公園	三浦	大野市有志団体		
	11/14-15	台湾の建築家と協働する大野六間通りに面するゲストハウス事業に向けた現地視察			台湾台中市	三浦	荒島社		
	1/13	台湾の建築家と協働する大野六間通りに面するゲストハウス事業に向けた地域活動			荒島旅社	三浦	荒島社		

大野市での活動概要紹介リーフレット

関わり続ける定住のカタチによる結の故郷づくり







まちの風景をかえる

活動は3年目を迎え、空き家であった川瀬ふとん店は地域の力によって、横町スタジオへ成長しました。2019年度は、学生が横町スタジオに移住し、まちの風景から地域拠点、建築の有り様を実践しながら探求した一年でした。

活動はまちへ波及し、多種多様なプロジェクトが大野で起こっています。



ソフトからのアプローチは、建築以前の居場所をつくります。活動四年目にはすっかり響がる改修プロジェクトになりました。

住みながらリノベーション  
建築を根本から問い直す

大野にある地域拠点の有り様

から問い直し、横町スタジオを改修するプロジェクトです。建築を単純に綺麗に改修するのではなく、第一に扉を開き地域と関係を作ることから始めました。

それは、「誰のための建築か」「なんのための建築か」「なぜつくるのか」を他者と根本的に問い直すことでもあり、横町の未来を考える改修プロジェクトでもあります。

横町スタジオを使ってみようというソフトからのアプローチは、建築以前の居場所をつくります。活動四年目にはすっかり響がる改修プロジェクトになりました。

空き家は青春。  
高校生と図書室をつくる。



地元の高校生たちが、大野の街中でリノベーションを行いました。まちの街灯のような、ゴシック文庫という図書室です。職人の指導を受けながら、空き店舗を自分たちの手で、形にしていきます。

このプロジェクトは、大野市主催の私が未来の市長プロジェクトというプログラムで、高校生たちが空き家0大野市丸ごとキャンパスビジョンを提案したことが始まりです。横町スタジオにて意見交換が行われ、高校生の提案をまわりの大人たちが本気で議論することで、達成されました。大野では、このような多世代型のPJも起こっています



横町スタジオリノベーション制作物集



図1 横町スタジオの活動イメージ

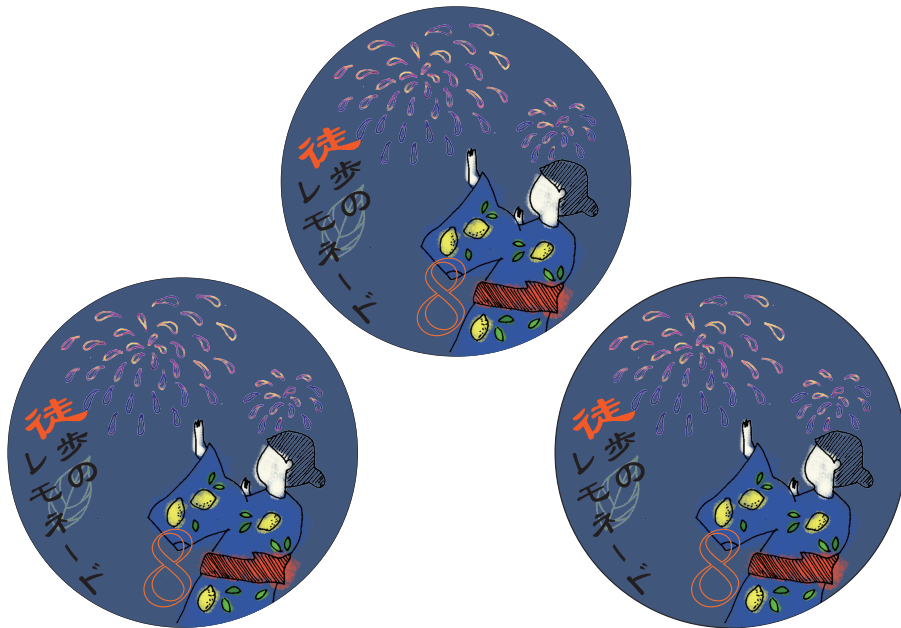


図2 おちゃ会チラシ

# 発酵街道

はっこうかいどう

発酵食品は身体にいいだけではない!

人と自然のダイナミックな関係が、結晶となり現れた場所のコスモロジーです。

さあ、口の中いっぱい広がる芳醇な味から、『大野』を想像してみましょう。

～お品書き～

お抹茶 300円  
発酵小豆 ??円  
お豆腐 100円

令和元年 05月12日

11時start!!

～14時finish!

@横町スタジオ日吉町1-7

絵本の読み聞かせ13時から



関西大学横町スタジオ

図3 発酵街道チラシ

## ●モモンガコーヒー二階リノベーション事業●

大野の高校生から、「空き家0大野市まるごとキャンパスビジョン」提案がありました。少しずつ、形にしていこうという思いでこの事業は立ち上がりました。

モモンガコーヒーの二階に素敵な図書室がオープンします。一緒に使って遊んで、リノベーションしてくれる仲間を大募集です。

# 下にコーヒー屋がある 図書室づくり。

参加無料

下記日程で参加できる方は、質問等は、080-2741-7614または [miura.mondo.0108@gmail.com](mailto:miura.mondo.0108@gmail.com) までご連絡ください。

8/01	8/02 03 04	8/04
15:00~16:00	10:00~15:00	17:00~19:00
オリエンテーション 自己紹介やWS	内装改修 ペンキ塗りやDIY	お披露目会&本の贈り物会 大人から高校生に!?

主催: 関西大学横町スタジオ



協力: CROP CROP モモンガコーヒー(大野市元町8-17) 明倫舎建築事務所、大野市 私が未来の市長プロジェクト

図4 モモンガコーヒー二階リノベーションプロジェクトチラシ





マイ★カレーライス★プロジェクト2019 × 関西大学横町スタジオ

横町のみなさん、  
カレーを食べて『横町のうえん』  
作りましょう！！



空き地 × 農業 × 教育。

良緑のうえんで育てた野菜がたくさん入った、  
うま味がたっぷりつまった  
カレーライスをワイワイ食べましょう！  
また、カレーを食べて応援してください！  
横町のうえん開設スタートです。

応募(募金)  
された方は  
カレーランチに  
ご招待!

カレー曜日 &  
秋野菜の準備 &  
横町のうえんづくり

@ 関西大学横町スタジオ

2019.09.01(sun)

09時00-スタジオ集合&説明  
09時10-横町プランター制作と種まき  
10時30-カレー作り  
11時45-食べます

主催:マイカレーライスプロジェクト  
連絡:09070877509

図6 横町農園チラシ

## 建築から考える暮らし

建築環境デザインの実践をきっかけに、  
あなたの暮らしの環境が

at 横町スタジオ(大野市日吉町1-7)

車でお越しの際は、城下町東広場駐車場(徒歩7分)  
大野市観光協会駐車場(徒歩5分)をお使いください。

違った角度から見えるゼミです。

# 01

### 「気軽に集まれる場所」からみる風景

-京都府八幡市男山団地での実践-

reiwa2

## 2020

.01.25 (Sat) 10:00~11:30



300  
YEN

**だんだんテラス**  
辻村 修太郎

近代建築は、空間を生み出す経済的な条件に支えられ、  
快適さ、効率性、空間の合理的な構成を目指してきた。  
しかし、そこで想定された普遍的な主体の存在は、虚構で  
あった。我々の実践は、<私>がかわるわかれた「気軽に集ま  
れる場所」を取り戻すための、小さな営みである。  
<そこにあるものしかない状況>に現れる空間もまた、  
ユートピアかもしれないが、

# 02

### ニュータウンにおける大学連携型 地域再編活動について。

-河内長野市南花台での取り組み-

reiwa2

## 2020

.02.09 (Sun) 10:00~11:30



300  
YEN

**コノミヤテラス**  
関谷 大志朗

急激な少子高齢化が進む河内長野市のニュータウン  
「南花台」に活動拠点を設け、行政・大学・地域事業者・  
地域住民...  
様々な主体、メンバーが持続的なまちに再編するために、  
活動しています！拠点って？住民参加って？大学って？...  
みんなで一緒に考える時間にできればと思います！

# 03

### 横町スタジオ内覧会と <横町通りを知る>けんちくワークショップ

-横町スタジオ改修プロジェクトの記録-

reiwa2

## 2020

.03.15 (Sun) 10:00~11:30



300  
YEN

**横町スタジオ**  
三浦 敏人

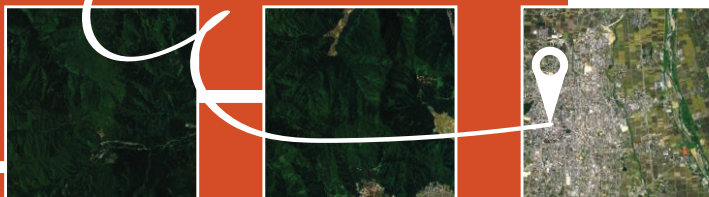
2019年度の改修の記録を設計者自身が解説します。  
横町という小さなコミュニティが作り上げた居場所。  
たしかに現れたまちの雰囲気。  
なぜこの場所が必要なのか、どのように設計したのか。  
「住みながらリノベーション」することで見えてきた問い  
を、今回ワークショップにして、みなさんと一緒  
に楽しく考えることを目的とします。

関西大学建築環境デザイン研究室 横町スタジオ  
TEL:08027417614



一年間ありがとうございます。

大野市 × 関西大学 地域連携協定



入場  
無料



2020.03.15 (SUN)  
14:00~16:00

大野市役所1階市民ホール

# 関西大学まちづくり研究報告会

大野市と関西大学の地域連携による、  
空き家を拠点とした大学生と地域のまちづくり、  
大野盆地の地下水に関する調査など、  
2019年度の研究報告会です。

お車でお越しの際は、城下町南広場駐車場をお使いください。

問い合わせ：大野市総合政策課【64・4824】

図8 関西大学まちづくり研究報告会 チラシ

福井県大野市横町スタジオにおける“雰囲気から考える建築”を軸とした設計プロセスの研究と展望-住みながらリノベーションすることを通じて-“関西大学大学院令和元年度  
修士論文,三浦紋人

# 福井県大野市横町スタジオにおける “雰囲気から考える建築”を軸とした設計プロセスの研究と展望

-住みながらリノベーションすることを通じて-

At YOKOMACHI Studio in Ono City, Fukui Prefecture Focusing on “architecture from the atmosphere”  
Design process research and prospects  
-Through renovation while living-

三浦紋人 \*1  
Mondo MIURA

**Keywords : Atmosphere, Renovation, Design process, Everyday, Multiple generations**

雰囲気、リノベーション、設計プロセス、日常、多世代

## 1. はじめに-雰囲気づくりの実践と建築

ポストモダンという概念は建築学の理論から出てきたものである。この概念は、建築学の発展において何かが変わったことを告げている。その何かとは、近代であるが、それは、建築学にとってはとりわけ機能主義の支配を意味していた。都市計画にとってこのことは、「アテネ憲章」に沿った。都市の基本機能である住居、娯楽、交通、労働の分離を意味した。このような分離が実際に行き着いたのは、都市の中心部の荒廃、近距離交通の強化、衛星都市の発展、そして、その都市自身の際限ない拡大であった。

このように、近代はいかにして建設するか、標準モデルを大量に供給するかをテーマにしていたわけだが、わが国は、阪神淡路大震災、東日本大震災を経験し、そのような都市の問題が一気に顕在化することとなった。建築家はハードを作るだけでなく、なぜ作るか、そもそも作る必要があるのかといった主題を住民とワークショップをするなどを通して問い直し、ソフトからのアプローチを行うようになった。つまり、結果としての建築のあり方だけでなく、コミュニティを巻き込んだ、その設計プロセスが重視されているということである。

このように、建築は建てて終わりではなく、建物を使う人をつくることも設計プロセスから考えられるようになった。であるならば、建築は、そのようなきっかけの場づくり以前の、使う人、関わる人を、「その気にさせる」雰囲気づくりの実践が重要なのではないか。

雰囲気とは人に知覚を与えることができ、また他者を巻き込む力があるということだ。またそれは、都市に住まう人々の生活が作り上げるものであり、その雰囲気によって、建築や都市は輪郭を成しているである。

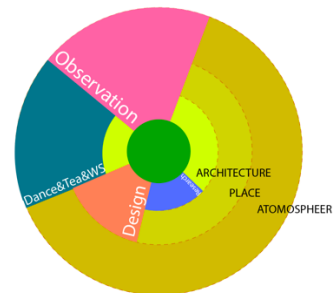


図 1-1 循環するような連続性のあるプロセスのイメージ図

## 2. 住みながらリノベーションすること

筆者は、大野市と関西大学の地域連携協定による、建築環境デザイン研究室の、“関わり続ける定住のカタチの実践による「結の故郷」づくりに向けた基礎的研究”の、空き家であった川瀬ふとん店を地域拠点にリノベーションする拠点づくりプロジェクトを 2017 年度から 2019 年度の間、継続的に行ってきた。

プロジェクトの目的は、大野を良好な集住環境に導くための足が

\*1 関西大学大学院理工学研究科

かりを発見し、実践を伴うことである。しかし、そもそもこのような活動は大野で必要とされているのだろうか。それは、住民と関わることでしか実証されない。筆者は、大野と深く関わるために、基盤の研究に則って、「住みながらリノベーションする」という方法を調査の基盤とし、約一年間大野に住むことを行った。住むことと建てることについて考えようとするのは、建てるのが住むことに従属することである。つまり、建築以前の活動に、建築の必要性を見出そうとしたわけである。

筆者は、常に住民や関係者を、その建築をつくるプロセスに巻き込み、一緒に横町スタジオのあるべき姿を模索してきた。それは従来のリニアに進む設計プロセスではなく、むしろ、思考や活動が行ったり来たりする、さらには循環するような連続性のあるプロセスである。

以上の設計プロセスを行った結果、横町の住民が主体的になり、まちの風景に変化が起こった。それらの変化は横町スタジオの雰囲気によるものと仮説を立て、その輪郭を探求することを本研究の目的とする。



写真 2-1 福井県大野市の位置

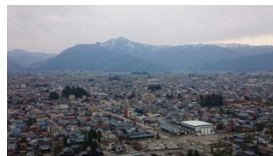


写真 2-2 亀山から見た大野市

### 3. 横町スタジオの雰囲気づくりの実践

横町スタジオリノベーションの具体的な価値とは、雰囲気をつくることであり、さらに、雰囲気とは、人が入り込むことでつくられることから、新たな出会い、関係性、使い方をつくることである。少子化に伴う育成会の衰退や、高齢化に伴う外出機会の減少が起因して、横町通りでは住民同士が日常的に顔をあわせるきっかけが殆どないことが住むことでわかった。このような地域での空き家リノベーションにおけるの第一歩は、安易に設計デザインし、モノを綺麗にすることではなく、人が出会う雰囲気づくりからはじめることである。



写真 3-1 (右) 2019年9月の地域拠点・横町スタジオ



写真 3-2 (左) 2017年当時の空き家・川瀬ふとん店

それでは、そのような雰囲気は誰が、どのように作っているのだ

ろうか。空き家であった川瀬ふとん店と、地域拠点横町スタジオの従前従後を比較し、雰囲気の産出要素を分析した。写真による分析から、その場に訪れる人の心理状態、記憶、想像、あるいは天気、時間のような、コントロールできない情報が複雑に絡み合った結果ある雰囲気が立ち現れることがわかった。つまり、雰囲気をデザインすることは極めて困難と言える。

それでは、なぜこのような多種多様な要素が生まれたのか。雰囲気の産出要因を発見し、それを設計デザインに用いることは困難だとしても、良くも悪くも雰囲気が立ち現れる横町スタジオの状態を考察することは可能ではないか。

それは扉が開いていて、人が居ることである。つまり、ひと気があるということである。

これは、写真の多くで見られる、横町スタジオの状態である。上記のようなコントロールできない、あるいはすべきではない情報に関わらず、雰囲気が立ち現れる本質であることがわかった。

つまり、空き家リノベーションの場合は、まずは開けてみるということが重要である。

空き家リノベーションでは、地域と関わりを持ちながら、雰囲気→場所→モノという設計プロセスを行うことが可能性である。さらに、住みながらリノベーションとは、循環するような連続性のあるプロセスであるから、常に一定のリズムで、住民が横町スタジオに入り込み、観察をすることによって空間を更新することができる。

### 4. 横町スタジオの実態調査から、雰囲気の考察

横町スタジオの開かれた状態から、訪れた住民は何を感情づけられたのか、住民のヒアリング調査を元に考察した。

例えば、横町のラジオ体操がその開催期間を徐々に伸ばしたことを例にあげる。2019年7月からとりあえず二週間やってみよう、の始まりから、一ヶ月、二ヶ月、最後はクリスマスまでやろう、と住民の共通の目標ができたことが、継続の要因であると言える。さらに、2020年度春から、自治会でラジオ体操の開催が決まり、今後も継続した健康的な環境に発展したと言える。

本論にて、このような住民の主体性の創出を、横町おちゃかい、横町ラジオ体操、横町のうえんから考察した。三つの活動から主体性には、言い訳ができる場が人に何らかの気持ちを起こしていることを考察した。その場は、日常性、多世代性、習慣性が起因していることが、活動の概要から明らかとなった。つまり、開かれた状態は、上記のような性質をつくり、雰囲気が立ち現れる場を創出しているのである。これらの性質を雰囲気づくりの条件とすると、原理的には「モノ」を構築してできている建築において、その「モノ」よりもその「モノ」のある「場」、あるいはその「モノ」の囲まれた「場」、またその「場」に立ち現れる「雰囲気」に人の心が左右



されているということである。

横町スタジオの設計プロセスは雰囲気→場→モノという大枠のプロセスをたどっている。モノを作る条件に雰囲気づくり、場づくりという建築家という主体に他者性が入り込んでいる。つまり、雰囲気、場づくりを設計プロセスの初期の段階から関わっていることが空き家リノベーションの本質的な部分ではないか。次章では、横町スタジオのリノベーションの設計から、空間と雰囲気の応答関係を明らかにする。



図 4-1 横町スタジオの輪郭

## 5. 横町スタジオリノベーションにおける設計プロセス

雰囲気が立ち現れる場は、どのような場所、あるいはモノであろうか。原理的には、建築において、雰囲気が最も重要である。それでは、モノに雰囲気づくりの要素は全くないのか。5章では、修士設計・横町スタジオ改修プロジェクトを元に設計プロセスを考察し、雰囲気から建築を考える。

横町スタジオのソフトからのアプローチを、川瀬ふとん店のハードに重ねると、その場所の性質が浮かび上がった。これはいわば、場所に雰囲気を重ねるような行為であり、そこから得られた副次的な情報（例えば建物の西側に人が溜まる、建物の東側に、道路から中庭までの南北の視線の軸が通っている）を設計の与条件にするという設計プロセスである。

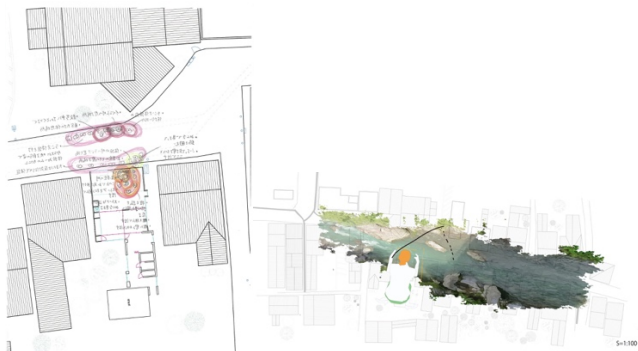


図 5-1 横町スタジオの使い方を川瀬ふとん店に重ねた

図 5-2 建物からまちを観察するイメージ

雰囲気から場所をよみとり、場所からモノをつくるという設計プ

ロセスである。さらに、横町スタジオは、開いている状態であるから、出来上がったモノにまた雰囲気が重ねられる。これは、思考や活動が行ったり来たりする、さらには循環するような連続性のあるプロセスであり、住みながらリノベーションをするという観察をとおして達成された。

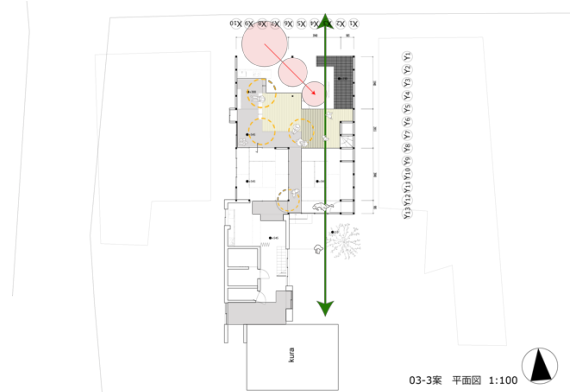


図 5-3 設計提案、平面図 動線と土間の関係

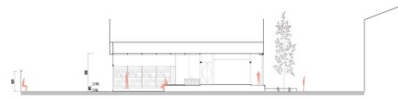


図 5-4 設計提案、南北断面図高さ

また、大工仕事に関して素人の学生は、完璧な施工ができない。そこに隙があり、住民との間に新たな雰囲気を立ち現れることを述べた。筆者はそれを可笑性（おかしみせい）と呼び、それに意識的になることで「デザインすることを待つ」設計プロセスであると述べた。これが雰囲気から建築を考えることについてのモノの役割ではないか。

以上の設計プロセスは循環しており、本研究によってモノは、雰囲気づくりの可能性を秘めていることがわかった。可笑性は建築の装飾の部分や収まりの部分に現れた。今後も循環する設計プロセスを続けることで、変化する社会に対応する設計ができるだろう。それは作り続けることであり、雰囲気から作られる建築の輪郭が常に揺れ動く可能性があることを示唆している。



図 5-5 改修の様子。ステージのエッジのおさまり

図 5-6 改修の様子。横町住民が横町スタジオに集う

図 5-7 改修の様子。土間西側のキッチン施工

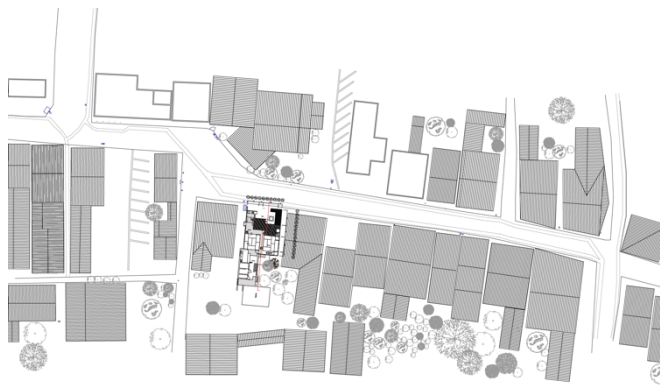


図 5-8 横町スタジオ周辺

## 6. 結論

私は、現代のカッコよくて、綺麗で、清潔な建築や建築家に違和感がある。いや、もはや嫌いと言っても過言ではない。世の中で評価される建築を見学しても、何も感じない自分がある。建築はもっとドロドロした言い訳や嘘、解放、喜びにあふれた人間臭い営みなのではないか。そのような生きられた場所を作れないか。これが私の建築をする原動力である。

それは、単に建築の見栄えや知的な領域の話ではない。なぜ建築をするのか、何のために建築はあるのか、そもそも建築はいらないのではないか。卒業制作ではそのような問いにもならぬ問いを抱え、腐心し空回りしたように思う。

そのような不満を抱え、私は大野へ行った。大野を訪れると様々な出会いがあった。

嫌なことも楽しいこともたくさんあった。住むということは極めて難しいことであった。

住みながらリノベーションすることは、地域と深く関わる手段であり、その目的は少しでも横町が良い地域になることである。

本研究では、住みながらリノベーションすることで、空き家であった川瀬ふとん店が、地域拠点横町スタジオへ移ろいで行く過程を考察、分析し、その設計プロセスを明らかにした。その設計プロセスとは、建築の輪郭は雰囲気なのではないかと仮説を立て、実践することで論を組み立ててきた。本論では、雰囲気が建築にとって最も重要であることをここまで書いてきたつもりである。他方で、住みながらリノベーションという手法を行ったこともあり、捉えられていない出来事、事象が多々あり、論理的な欠陥が多くあることは認める。

しかしながら、そういった事を抜きにしても、私が住みながらリノベーションをすることによって、横町の住民が元気になり、また横町スタジオは彼らにとって必要な場所となった。雰囲気とは情感づけられた空間であり、それは「人にある気持ちを起こさせること」である。横町の住民が前向きになったことを言葉にして説明することは極めて難しいが、紛れもない事実である。横町には、それぞれが生きようとする雰囲気が立ち現れている。つまり、これは建築の設計プロセスだけにとどまらない。むしろ、雰囲気とは建築だけで作ることができない、建築家が他者に委ねてしまった結果の状態である。それは住民が自ら作った雰囲気である。であるならば、建築

はより他者に開かれるべきだろう。建築家は身体をもってまちとダンスするべきだろう。そういった建築家像が今求められているのかもしれない。

雰囲気から建築を考えると、日々を豊かに生きるための実践である。

住むことを通して建築を見つめ直すことに挑戦したが、雰囲気から建築を考えることについて、少しでも伝われば幸いである。

## 参考文献

- 1) ゲルノート・ペーメ：雰囲気美学, 晃洋書房, 2006
- 2) 五十嵐太郎：忘却しない建築, 春秋社, 2015
- 3) 平成30年度 関わり続ける定住のカタチの実践による「結の故郷」づくりに向けた基礎的研究  
住民との協働による関西大学横町スタジオの運営に向けた検討会と実践ワークショップ実施
- 4) 河原哲郎：歴史と史跡 大野, 1988
- 5) 乾久美子：小さな風景の学び さまざまなサービスの表情, TOTO 出版, 2014
- 6) 大野市：大野市地下水年次報告書, 平成29年版, 発行2017
- 7) 辻村修太郎：「団地再編におけるコミュニティ拠点」開設の経緯と利用実態に関する実践的研究-UR 男山団地だんだんテラスを対象として-, 平成26年関西大学修士論文
- 8) 関谷大志朗：“時間の重なりを軸とした編集”としてのリノベーションの手法と設計  
-場所の秩序と物語性を持った建築を目指して-, 関西大学修士論文, 2014
- 9) 多木浩二：生きられた家-経験と象徴-, 青土社, 2000
- 10) 日本建築学会編：建築フィールドワークの系譜, 昭和堂, 2018
- 11) 江川直樹：場所の声を聞く, 関西大学出版部, 2011
- 12) ティム・インゴルド：メイキング 人類学・考古学・芸術・建築, 左右社, 2017
- 13) 坂牛卓：建築の条件 「建築なきあとの建築」, LIXIL 出版, 2017
- 14) 原広司：集落の教え 100, 彰国社, 1998